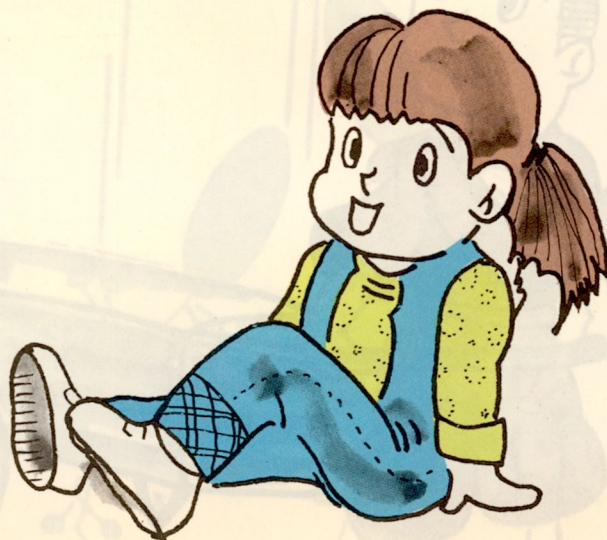


清掃係のおじさんと ぼくの古紙の話

清掃だより

№.10



ぼく 「古紙が利用され始めたのは、いつ頃からですか。」

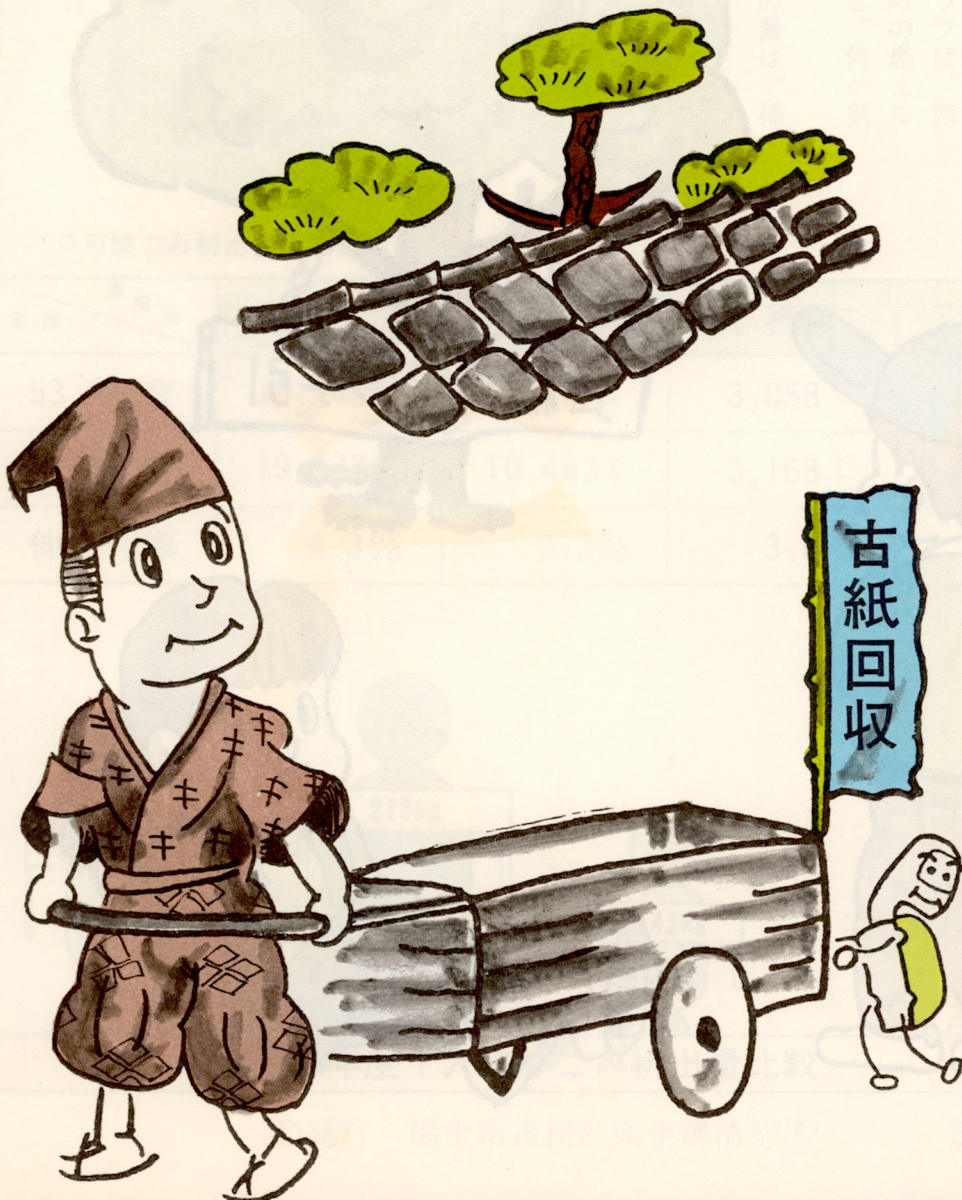
おじさん 「それでは、いまのような紙が作られたのは、いつ頃だろうか。」

ぼく 「中国で発明された、紙を作る技術が日本に伝えられたのは、推古天皇のころといわれています。」

おじさん 「そうだね。平安時代になると、京都の紙屋川という川のほとりに紙屋院という製紙所がつくられ、製紙事業が盛んになったんだそう。古紙の利用は、この紙屋院で、いらなくなった紙を原料にして、すきかえし紙という紙を作ったのが始まりといわれている。その頃の人々は、亡くなった人の手紙などをすきかえしてすきがえという紙を作り、それに写経をして供養することを、盛んにしていたそうだよ。」

ぼく 「古紙回収を仕事にする人が、あらわれたのは、いつ頃ですか。」

おじさん 「江戸時代享保年間頃で、その人達の組合もあったということだよ。」



ぼく 「古紙って、どうして大切なんですか。」

おじさん 「紙を作るには、何が必要だろう。」

ぼく 「原料になる木が、必要です。」

おじさん 「そうだね。それに、木から紙を作るまでに電気や水をたくさん使わなければならないね。それでは、古紙を紙の原料にしたらどうだろう。」

ぼく 「そうか。木を使わないから、森や林を護ることができそうですね。それに電気や水の節約にもなる。」

古紙を再利用することは、森林資源を護ることになり、木材からパルプを作る工程がはぶかれるので、電気や水の節約にもなります。このように、古紙は身近にある大切な資源なのです。また、私たちの生活から出るごみの三分の一は紙類ですから、古紙を回収することで、ごみ減量にもなるわけです。



ぼく 「古紙は、どうやって集めたら良いのでしょうか。」

おじさん 「ただ集めれば良いというものではないんだよ。回収に、費用がたくさんかったのでは、古紙が高くなってしまう、製紙会社としては品質面などを考えて、古紙よりパルプを使うことになってしまう。そうなる、せっかく集めた古紙も無駄になってしまう。だから、古紙の回収には、あまり手間がかからない方法がいんだ。」

ぼく 「チリ紙交換とか、いろいろな回収方法がありますね。」

おじさん 「そうだね。でも、私たちに一番身近で、私たちにもできるのが、集団回収なんだ。」

古紙を回収し再利用することには、たくさんメリットがあります。しかし、回収コストが高ければ資源であっても資源にはなりません。パルプと競争関係にある古紙は、コストを低く押さえなければ、資源とはならないのです。

集団回収は、回収及び選別作業に手間がかからず、一度にたくさん量が集まるなど、コストを低く押さえるうえからも、一番良い方法といえるでしょう。



ぼく「集団回収にも、やり方があるんですか」

おじさん「長く続けていくためには、やはり方法があるんだよ。役員の人達ばかりに、負担がかかってはだめなんだ。みんなが一つの目的をもって、力を合わせてやらなければならないんだ。」

集団回収は、ごみ減量になるので市にとってもまた、まとまって回収できる業者にとっても助かります。この集団回収を、活発にそして長く続けていくために、次のことを参考にして下さい。

① 目的をもって行う。

町会や子供会の運営費に充てるというように、目的を決めて実施すれば、一人ひとりやりがいが出てきます。

② 役員ばかりに負担をかけないこと。

一部の役員の人達ばかりに負担をかけたのでは、集団回収は長続きしません。参加者全員が力を合わせて、合理的に行いましょう。

③ 集積場所は分散すること。

集積場所が一ヶ所では、そこに集めるまでに、役員の人達がたいへんな負担を負うことになります。何ヶ所かに分散し、一番近い集積場所まで、参加者一人ひとりに持ってきていただくようにすれば、役員はPRや指導に専念できます。



④ PRを徹底すること。

回収実施日や集積場所などが決まったら、チラシや回覧を使って、PRすることが大切です。うっかりして忘れてしまうこともありまますから、何度もPRして徹底させましょう。

次回から同じ曜日、同じ場所というように定期的に行えば、PRも楽になります。

⑤ 売却収入は必ず参加者へ報告を。

自分達の汗の結晶が、どのくらいであったかを知ることにより、次回への意欲も湧くというものです。

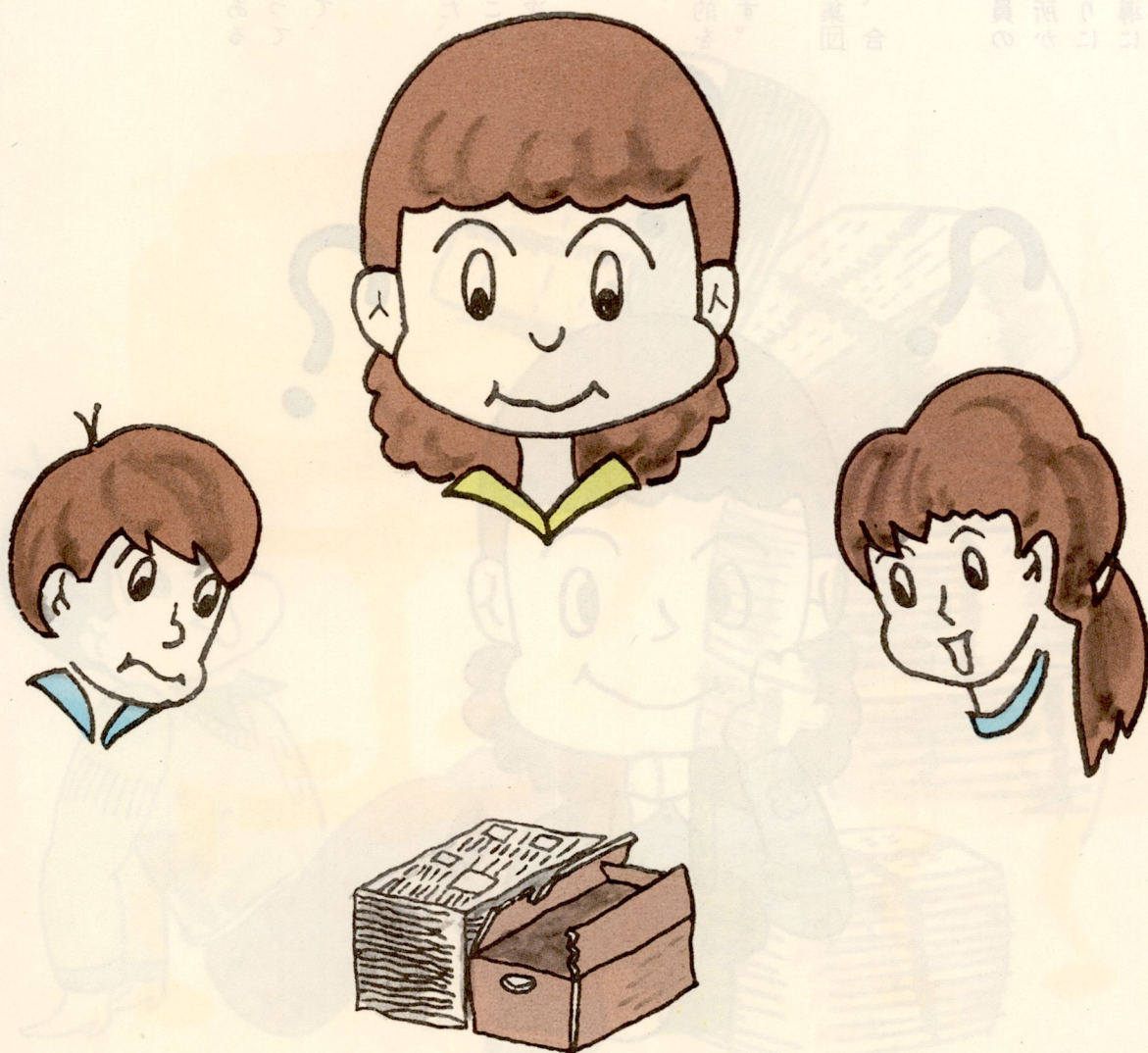
御家庭では、集団回収へ出す前に、次のことに御協力下さい。

○ 種類別に分類すること。

古新聞・古雑誌・紙箱・ダンボール箱の四種類に分類し、古新聞・古雑誌は、それぞれヒモで十文字にしぼり、紙箱やダンボール箱もそれぞれ、平たく伸ばしまとめてしぼるようにして下さい。

○ 次のものは入れないこと。

ポリ、ナイロン、ビニール袋、油紙、ろう引き加工品、セロハンなどは、入れないようにして下さい。



ぼく 「集団回収をした団体に

は、市から報償金が支払
われるそうですけど。」

おじさん 「そうだよ。みんなが一生懸命集団回収をして
くると、ごみが減って、市としては大助かり
なんだ。だから、この報償金は、市からの御礼
なんだよ。」

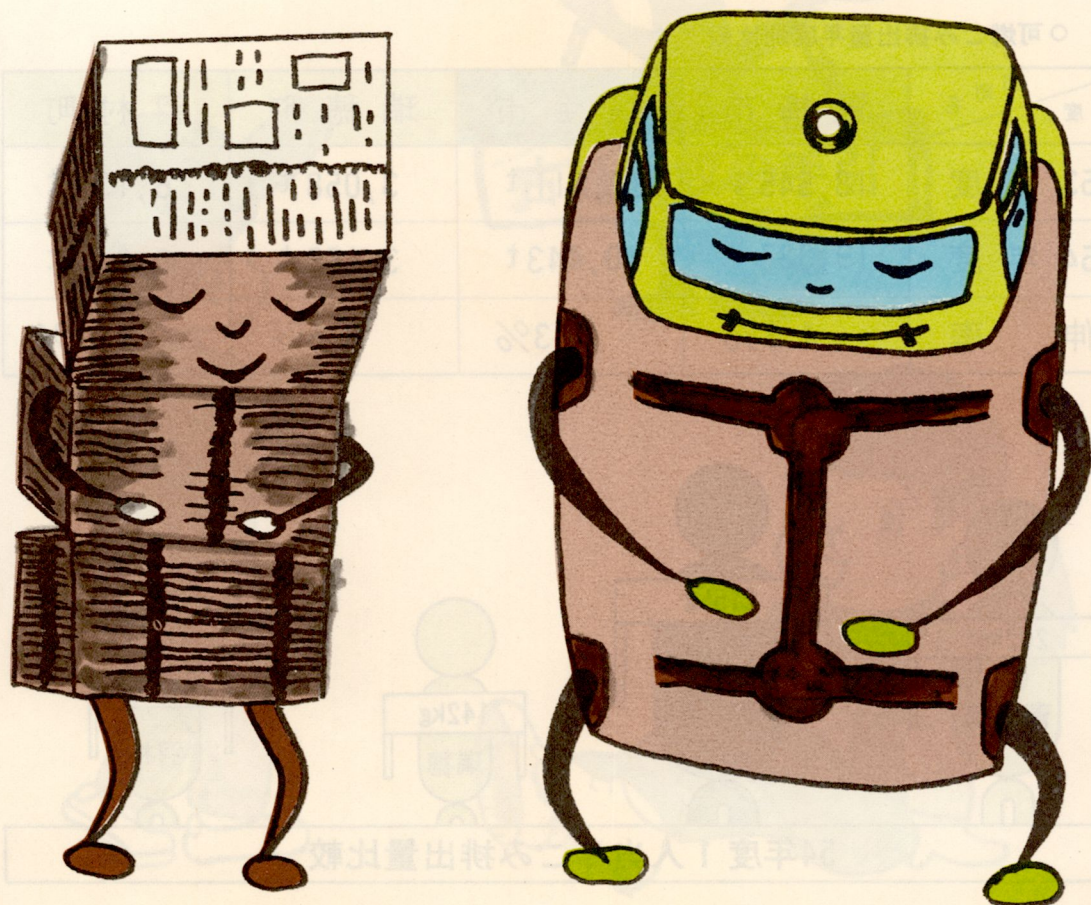
福生市では、五十五年度から、古紙回収実施団体への
報償金制度を発足させました。

ごみ減量運動にとつて、古紙集団回収は最も重要な、
そして効果の大きい活動です。みなさんの御協力を受け
ながら古紙回収運動を推進していくことは、ごみ減量運
動を一層発展させ、大きな成果を得ることができます。

この報償金制度を有効に使い、みなさんの力で、古紙
回収運動を推進していただきたいと思います。

○報償金の受け方

古紙回収を実施した住民団体は、市指定の報告書兼申
請書（市衛生課で配布）と仕切伝票の写しを、実施した
月の翌月の十日までに、町会を通じて市へ提出して下さ
い。古紙回収量に応じて報償金（古紙一キログラムに付
二元）が支払われます。



ぼく 「いままで、古紙について教えてい
ただきましたけれど、福生市のごみ
の状況はどうなっているんですか。」

おじさん 「下のグラフを見てみよう。このグラフは、西

多摩衛生組合に加入している二市二町の燃える
ごみの量を比較したものだけれど、何か気
がつかないかい。」

ぼく 「他の町に比べて、一人が出すごみの量は、福
生市が一番多いですね。」

おじさん 「そうなんだ。ごみの量の伸率は低いけど、そ

れは人口の伸率も関係しているから、一人当り
ではこんなに多いんだ。だから、私たちは他の
町の人達よりも多くの税金を、ごみの処理に使
っていることになるんだよ。わかるかい。」

ぼく 「ごみを減らせば、その分のお金を、ぼくたち

の学校のことなどに使えるわけですね。」

おじさん 「みんなに、古紙回収をしてもらって、ごみを

減らすことができれば、一石何鳥もの効果が生
まれるんだよ。」

ぼく 「そうか。ぼくもきょうから、ごみのことを勉
強して、少しでもごみを減らすようにしなくちゃ。」

古紙集団回収、ごみ減量は、決って難しいことでは
ありません。一人ひとりが力を合わせて行えば、その成
果は計りしれません。

さあ、きょうから、あなたもわたしもごみ減量。

○可燃ごみ排出量年度別比較

市 町 名 年 度	青 梅 市	福 生 市	瑞 穂 町	羽 村 町
53 年 度	18,545 t	10,211 t	3,058 t	6,136 t
54 年 度	19,337 t	10,443 t	3,168 t	6,691 t
伸 率	4.3%	2.3%	3.6%	9.0%

